

北陸大学ライブラリーセンター報

Bulletin NO.16

⇒をクリックすると本文がご覧になれます。

「法律学の本質としての正義－契約自由から契約正義へ」

新井 剛
(法学部助教授)

※著作権に関わるため
本文はご覧になれません。

⇒ 癒しを求めて

笠原 祥士郎
(国際交流センター講師)

⇒ 知のディズニーランド、北陸大学オープン大学

小林 哲郎
(エクステンション事業室長)

⇒ 私と本と図書館と

下垣内 徳子
(薬学部 薬学科 3年次生)

⇒ 私とクレバーハウス

英 優子
(法学部 政治学科 3年次生)

⇒ ライブラリーシステムを更新しました

⇒ 学術資料部長からのお勧め本

⇒ 編集後記

HOKURIKU UNIVERSITY LIBRARY CENTER

北陸大学ライブラリーセンター報
2nd-Half 2003



「法律学の本質としての正義 —契約自由から契約正義へ」

新 井 剛



※著作権に関わるため

本文はご覧になれません。

癒しを求めて

笠原 祥士郎



いきなり個人的なことで申し訳ないが、私は人生の二度の危機を、まさに図書館によって救われた。一つは、在学していた大学の図書館である。当時、私は修士論文が書けなくて不眠症にかかっていた。そして、人との感情の交流を自分から閉ざしていた。誰とも会いたくなかったし、誰とも話したくなかった。図書館の地下三階だったか書庫はもちろん朝から真っ暗で、所々にぶらさがっている蛍光灯にかろうじて文字が読める程の明かりがあった。その最も奥にぼつんと置かれていた小さな学習机はそんな私にとって一番落ち着ける居場所だった。そもそも、勉強をするために大学に通っているのに、指導教官を訪ねて相談もせず、友人たちの誰とも議論しないで一人でこもるのは邪道である。だが、多少言い訳がましくなるが、決して不真面目な学生ではなかった。むしろ、いい論文を書こうと必死だったし、自分自身を賭してもいた。だからこそ、自分の無能と無知の鞭に毎日打ちひしがれていた。それを救ってくれたのはあの図書館の書庫だった。

二つ目は、西安外国語学院で日本語を教えて帰国してからのことである。常勤勤務校もなく、非常勤講師としてかろうじて生計を立てていた。そんな境遇で三十歳を幾つか超えると、社会から取り残されたような気持ちになる。どこかに帰属していないと不安でいたたまれない。この時も図書館だけが港のように私を迎え入れてくれた。平日のこと、県立図書館は利用者も少なく、閲覧室の四人用の広い机を独占できた。ゆったりと資料を並べ、余計なことを考える必要もなく原稿に没頭できた。

なんだか少し暗い雰囲気になってしまった。勉強のことがこんな暗い話になるのでは、私はどうも勉強にふさわしくない人間なのかもしれない。そんな私が今ここにいることができるのはすべて図書館のおかげだ。何れ報恩しなければならないが、いまはまだ早い。そう言えば、この頃あまり図書館にお世話になっていないのは生来の怠惰のせいだ。一念発起、今度は我が北陸大学のクレバーハウスを舞台にした暗くせつない物語を綴らねばなるまい。

そのクレバーハウスは留学生に頗る評判がいい。先ず、職員の皆さんがとても親切だという。次に、インターネットを無料で使えることや夏休み中も開放していることなど、中国の大学の図書館に比べて便利なのだそう。そして、これも中国の大学の図書館とは異なることとして、本に囲まれた閲覧室の中で読書できる（中国では閲覧室と本棚は区別されている。）のは、「知識の海に泳ぐような雰囲気があって」快感だという。日本に来て四ヶ月足らず、なかなかしゃれた日本語を操れるようになったものだ。

図書館利用頻度は、留学生の方が日本人学生よりも高いのではないかと。確かに、がんばりやが多い。留

学しているのだという気構えを持ちつつ、便利で雰囲気のある図書館で明るくポジティブに学ぶことはすばらしい。ただ、留学生諸君には、悩み苦しんで図書館に逃げ込んで欲しいし、逃げ込んだ先の図書館で更にもう一度苦しんで欲しい。日本でそうした苦しみの経験を積んでこそ、はじめて留学の本当の意義を見つけられるのではないだろうか。

何度も言うが、図書館はいつでも傷ついた心を癒してくれるのだから。

(国際交流センター講師)

知のディズニーランド、 北陸大学オープン大学

小林 哲 郎



「知は力なり」。北陸大学は、平成11年10月、本学学生の教養の涵養と人間教育、地域の皆様への生涯学習の支援、地元産業界への人材育成、国際化への拠点づくりという4つの理念を標榜し、公開教養講座を開設しました。翌年、平成12年4月からは「北陸大学オープン大学」という呼称で、教養講座を中心に、学内外から多彩な講師を迎え、通年で開講しています。開設時より平成15年度まで280講座を開設し、学生・一般延べ8千人が受講しました。平成15年度は63講座を開設し、総講義開講数は約600です。

昨今、日常生活基盤の中で衣・食・住・旅の次くらいに置かれるであろう生涯教育、なにかなく教養教育の興隆はカルチャーセンターでの余暇を楽しむ趣味やレクリエーション、あるいは、習い事のような講座には物足らず、生きがいに繋がるライフワークを持ちたいと願う人が確実に増えてきたからといえるでしょう。大学の施設と勉学環境を開放し、長年にわたって蓄積してきた教育・研究の成果を広く社会に開放する公開講座は、平成11年度で私立大学約410校で開設され、受講者数は約60万人に及んでいます。

精神の必需品を造る製造業としてオープン大学は、学びへの興味や関心を刺激し、意欲あふれる受講生の未知なるものへ輝く眼に期待しています。講座終了後、コミュニティハウスで昼食をとり、ライブラリーセンターで本に浸り、サウンドトラックで汗を流して帰る受講者は、大学を精神的なディズニーランドとしています。また、ある受講者は、「オープン大学がある日は朝からそわそわとして、非常に充実した1日を過ごすことが出来たことを嬉しく思っています。」と受講後感想を寄せています。このように受講者は大学で知に触れ、その廻りにある空間をも含めて精神文化を楽しんでいるようです。

虚（きょ）にして往（ゆ）き、実（じつ）にして帰（かえ）る、「虚往実帰」という言葉があります。「知識や徳もない者が師のところに出掛けて、自然と教化、徳化され何かを得て帰る」。大変熱心な受講生であった卒業生は、「講座内容に対して何の先入観や予備知識も無く授業の合間に受講し、結果、一つひとつ得るものがあつた。それが現在の未知の仕事に対してチャレンジできる基盤になっている。」と語っていました。オープン大学には、入学試験やカリキュラムがありません。学部や学科に縛られませんし、また、定期試験やレポート提出、修業年限もありません。このように肩の張らない接し方もまたオープン大学の魅力の一つなのでしょう。

私達は、150億年以上にも及ぶ宇宙の歴史において、たった一度だけの生命を与えられて、そして宇宙の終えんまでいや永遠に何かを感じたり、考えたりするチャンスを与えられないまま死んでしまうのだとしたら、なんともったいないことでしょうか。

(エクステンション事業室長)

私と本と図書館と

下垣内 徳子



私は、4世代9人という大家族の最年少という立場で、賑やかで陽だまりのような家庭に育った。とくに私は、曾祖父母が大好きで、外で遊ぶ姉とは対照的に曾祖父母のそばが居心地よかった。その頃、曾祖父母の年齢は80代だったと思うが、二人のまわりはいつもゆっくりとした時間が流れていた。私は、子供心に彼らの生活スタイルに興味を持ち、真似をするのが楽しかった。

曾祖父母は、冬の一日の大半をコタツに入って読書をするのが日課であった。読み古した薄っぺらな本を何回も何回も読み返していた。チャンチャンコを着て眼鏡をずらして読書をする姿は、穏やかで温かい雰囲気を感じた。私も二人の空気に同化したくて、母に綿入りのベストと玩具の眼鏡をおねだりしたことを覚えている。曾祖父母がなにやら本にメモをするので、私も自分の絵本に落書きをした。

今でもこの思い出は、よく家族の話題に上る。私の本好きは、曾祖父母の影響かもしれない。

私は、今まで、節目、節目で素晴らしい本に出逢ってきた。

幼い頃、読み聞かせてもらった童話や絵本は、鮮明に記憶に残っていて、私の土台を築いた。子供向けの絵本は、驚くほど大きなテーマをストレートに伝えてくる。自分で問題を複雑に難しくしている時、絵本を開くと、自然と肩の力を抜いて素直に自分と向き合えるようになる。絵本は私の柔軟剤である。

高校の受験を控えて、心がささくっていた時、中村久子さんの「こころの手足」に巡り合った。幼くして脱疽^{だつそ}によって手足をなくし、逆境の中をひたむきに底ぬけに明るく堂々と生きられた彼女の生き様から、それまで「ない・ない・ない」と不満だらけだった私の甘えた考えを「ある・ある・ある」に変えてくれた。私は、五体満足に生まれながらも、手探りで「ないもの探し」をしているために、「あるもの」さえも見失っていた。大勢の人に助けられて、生かされていることを自覚し、感謝して、自信と誇りをもって力強く前に進もうと、勇気づけてくれる、私の一生の教科書である。

最近、薬学を志す私にとって、将来の指針となる本に巡り合った。授業である町医者のお話を聞き、その言葉がとても印象的で、忘れられず、図書館で彼の本を探してもらった。彼は、高齢化の進む日本で、往診医療生活を45年も続けられ、78歳になられる現在も地域医療の展開をはじめ、講演やラジオ、執筆などで広く医療・生活相談を受けるなど元気に活動されている。老・病・死への苦しみと恐怖を乗り越えて、いかに充実した“生”をいきるか、多くの人の生き様、死に様、死にあと様に立ち会ってきた彼の豊富な臨床の現場から語りかける力強くわかりやすいメッセージが、多くの人の心を励まし奮い立たせる。私の曾祖父母は、90余命の人生を全うし、眠るように息を引き取った。そんな二人の死に様をみて、すばらしい“生”を学んだ。現代医療はいろいろな問題を抱えているが、人間は生まれた時から死が背中合わせであることを常に念頭において、薬学を学んでいきたい。

現在の情報化社会は大変暮らしやすいが、気を緩めるとその情報に呑み込まれ流される危険性がある。私は、情報をうまく活用することのひとつに、図書館通いを大切にしている。一冊の本を何回も読み返して本と密に関係していけるような、心の余裕を持ちたい。

(薬学部薬学科 3年次生)

私とクレバーハウス

英 優 子



私とクレバーハウスの初めての出会いは入学してすぐのことでした。中に入ると清潔感のある、またどこか暖かい匂いのする空間が広がっており、なんて素敵な場所なんだろうと感動を覚えました。そこは、ゆっくりと時計の針が進んでいるような空間で落ち着いて勉強や読書、インターネットを楽しめる場所ですぐに気に入りました。また、入学したばかりの私はパソコンに疎く、ライブラリーセンターの職員に聞くことが多かったのですが、とても親切に対応してくれ私がクレバーハウスを好きになるきっかけの一つになりました。今でもクレバーハウスに入る際、挨拶をすると笑顔で返してくれるので非常に気持ちが良いです。そういった人との触れ合いが大切だと思います。

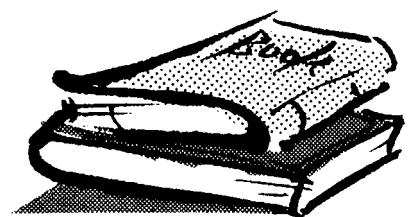
クレバーハウスには雑誌を初め沢山の良書が置かれています。世間では大学生の活字離れなどが取りざたされていますが、やはり本を読むということは自分の知性を豊かなものにしてくれ、また想像力が養われる物だと思います。情報化時代の現代、テレビ、インターネットで容易に大量の情報が得られますが、時間をかけて読むということによって脳裏に焼き付くこととなり、自分のものにできると思います。

ある人は、読書は「人間だけができる特権」とも言っています。また読書は旅のようなものとも言っています。東へ西へ、南へ北へ、見知らぬ人たち、見知らぬ風景に出会える。しかも、時間の制約もない。アレキサンダーとともに遠征したり、ソクラテスやユゴーとも友達になれる。語り合える。私も全くその通りだと思いました。

こんなにも環境が整っているクレバーハウスを利用しないのは、本当にもったいないことだと思います。読書をすることによって、無限の力をもった自分を開花させるきっかけになると思います。さあ、皆さんもクレバーハウスに足を運びませんか。

最近、昼休みなどにクレバーハウスに行った際、インターネットの接続に時間がかかるのが一つの悩みです。近年、パソコンの台数が増加し、それだけ利用する人が増えたのですが…なので、休み時間より授業の空き時間を利用したほうが効率的だと思います。

(法学部政治学科 3年次生)



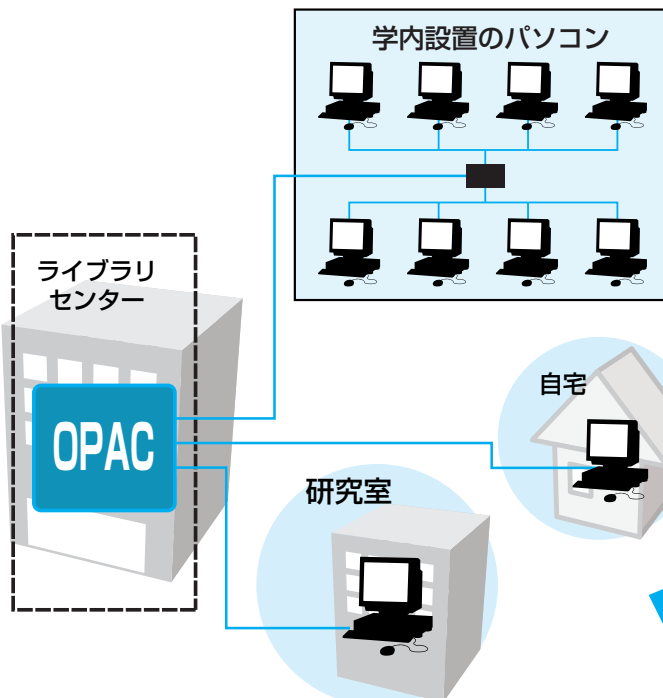
ライブラリーシステムを 更新しました

NEW

NEW LIBRARY SYSTEM NEW LIBRARY SYSTEM NEW LIBRARY SYSTEM NEW LIBRARY SYSTEM

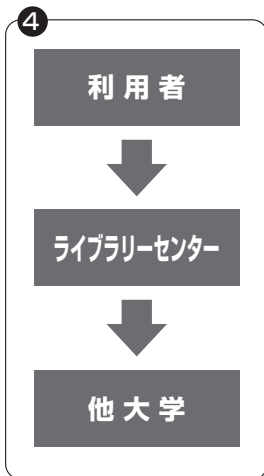
平成15年4月より、『丸善図書館情報システム「Carin」』を導入しました。主な利便性は、次のとおりです。

1. インターネットで所蔵図書
の検索利用が可能となりました。
2. 多言語表示対応（中国語や
ハングル語）の利用が可能と
なりました。
3. “My Carin” システムの利
用が可能となりました。



1. 従来通りライブラリーセンターにもOPAC
(Online Public Access Catalog : 館内
蔵書検索のための端末機) を設置してありま
すが、学内・自宅及び研究室等インターネット
に接続している全てのパソコンを利用して、
「蔵書の検索・予約」が可能となりました。
つきましては、北陸大学のホームページ
(<http://www.hokuriku-u.ac.jp>) のライ
ブラリーセンターの「蔵書検索について」にリ
ンクしてあります。

2. 新しい OPAC 館内蔵書検索画面では、多言語表示モードに切り替えて検索できます。中国語資料は、対応する日本語漢字・ピンインで、韓国語資料もハングル文字等で、検索することができます。
(例：北京を検索したい場合は、beijing とピンイン入力)
なお、自宅のパソコンでも多言語対応機能であれば、同様に検索することができます。

3. “My Carin” を利用することにより、従来ライブラリーセンターで受け付けていた下記の事項（1～4）が、インターネットに接続している全てのパソコンから可能となりました

- 1、自分の貸出状況や返却日を確認することができます。
- 2、貸出中の資料を自分で予約することができます。
- 3、自分の貸出履歴を見ることができます。
- 4、他大学所蔵資料の複写や借用を申請することができます。

“My Carin”のお申し込みを随時受け付けています。受付までお問い合わせください。

みなさんのお申し込みをお待ちしております。

学術資料部長からのお勧め本

教員が学生の皆さんに読んでいただきたい図書在学生推薦図書として選書しています。その中で特に学生生活を送るうえで皆さんに読んで貰いたい図書をピックアップしました。



書名 明日の日本への贈り物

- 著者：日野原重明
相馬雪香
- ジャンル：政治・社会・時事
- 配架場所：センター3F
- 分類番号：304/A 92

プロデュース

明治・大正・昭和・平成。移り変わる時代を見つめた医師と平和活動家が、地球の未来を信じて語る対談集。智の創造とその活性化への処方箋。

書名 女性弁護士物語

- 著者：山本祐司
五十嵐佳子
- ジャンル：経済・法律
- 配架場所：センター3F
- 分類番号：327.14/J 76

プロデュース

年々、司法試験合格者に占める女性の割合が増えている。法律という道具を使い、困難を訴える人に手をさしのべ、救済の道を切り開こうとする女性弁護士17人を紹介。「法学セミナー」連載をまとめる。

書名 中国史のなかの日本像

- 著者：王勇（わん・よん）
- ジャンル：歴史・地理・地図
- 配架場所：センター2F
- 分類番号：222.01/C 62

プロデュース

中国人の目には、日本という空間、そこに住んでいる住民がどのように映ってきたのか。歴代の中日文献を手がかりに、日本人像をデッサンしていく。

書名 14歳からの哲学

- 著者：池田晶子
- ジャンル：哲学・思想・心理
- 配架場所：センター2F
- 分類番号：104/J 99

プロデュース

今の学校教育に欠けている14歳からの「考える」ための教科書。「言葉」「自分とは誰か」「死」「家族」「社会」「理想と現実」「恋愛と性」「メディアと書物」「人生」等30のテーマで考えるきっかけを与える。

書名 人生は意図を超えて ～ノーベル化学賞への道～

- 著者：野依良治
- ジャンル：自然科学
- 配架場所：薬学部館4階
- 分類番号：430.4/J 52

プロデュース

2001年ノーベル化学賞受賞者による、受賞後初めての著書。ノーベル賞100年記念式典の華やきを伝える書き下ろしをはじめ、人生と学問と若い世代へのメッセージを伝える講演録を収録。

編 集 後 記

当センター報でご案内したとおり、4月から図書館情報管理システムを更新しました。センターでは、ハード面・ソフト面においても、資料の充実等、学生諸君のため、出来る範囲での支援をしていきたいと考えております。相談等がありましたら、お気軽に声をかけてください。

CONTENTS

- 「法律学の本質としての正義－契約自由から契約正義へ」…………… 1
- 癒しを求めて…………… 2
- 知のディズニーランド、北陸大学オープン大学 …… 3
- 私と本と図書館と…………… 4
- 私とクレバーハウス…………… 5
- ライブラリーシステムを更新しました…………… 6
- 学術資料部長からのお勧め本…………… 8

北陸大学ライブラリーセンター報
NO.16 2nd-Half 2003

平成15年10月20日発行

編集・発行：北陸大学ライブラリーセンター
〒920-1180 金沢市太陽が丘1-1
TEL. 076-229-3021
FAX 076-229-4850

ライブラリーセンターEメール：tlib@hokuriku-u.ac.jp
北陸大学ホームページ：http://www.hokuriku-u.ac.jp/

印刷：カンダ印刷株式会社